

## <sup>111</sup>In-DOTA-c(RGDfK)による早期肺がんイメージングと RI 内用療法の可能性

2013/3/7 (木) 17:30~18:30

大阪大学医学部 講義棟2階 C講堂

独立行政法人国立がん研究センター

# 吉本 光喜 先生

肺がんは極めて予後不良のがんであります、早期の段階から浸潤・転移が見られるため、早期発見が予後の改善、生存率の向上に重要です。細胞接着因子の一つである $\alpha_v\beta_3$ インテグリンは、肺がんで高発現していること、さらに、正常組織での発現が見られないことから、肺がん検出において優れた標的分子であると考えられます。我々は BOP 誘発ハムスター肺がんモデルを用いて、 $\alpha_v\beta_3$ インテグリンイメージング剤である <sup>111</sup>In-DOTA-c(RGDfK)による早期肺がんイメージングの可能性について検討してきました。本セミナーでは <sup>111</sup>In-DOTA-c(RGDfK)による早期肺がんイメージングと RI 内用療法への応用について紹介します。

### 略歴

- 1997年 3月 大阪薬科大学大学院薬学研究科修士課程 修了
- 2001年 3月 福井医科大学大学院医学系研究科博士課程 修了
- 2001年 14月 財団法人 先端医療振興財団 非常勤研究員
- 2002年 13月 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻医療科学領域 助教
- 2009年 13月 国立がんセンター研究所 がん予防基礎研究プロジェクト 主任研究官
- 2010年 11月 独立行政法人国立がん研究センター研究所 発がんシステム研究分野 主任研究員
- 2011年 16月 独立行政法人国立がん研究センター東病院臨床開発センター  
機能診断開発分野（併任）

主 催:PET 分子イメージングセンター

連絡先:大阪大学医学系研究科核医学講座(06-6879-3461)

[hatazawa@tracer.med.osaka-u.ac.jp](mailto:hatazawa@tracer.med.osaka-u.ac.jp)

<http://www.tracer.med.osaka-u.ac.jp/index-jp.htm>